

佳作 「給食に感謝」

三河安城小学校 西戸 ひなた

一年生から三年生まではなにげなく食べていた給食でしたがある出来事でとても感謝をしたくなりました。四年生からタイという外国に住むことになりました。学校ではお弁当を持って行きます。私は、お弁当用に保温のお弁当箱を買ってもらいました。でも、ふふうのお弁当箱よりはあったかいですが、やっぱり給食よりは冷たいです。それに、お母さんも朝早く起きたり栄養バランスを考えなくてはいけないのでとても大変です。それから、私もころがらないように、くずれないようにと心がけていて大変でした。こうして私は、「給食のありがたさ」を知りました。タイの友達も「お弁当もいいけどやっぱり給食の方がいいな。」と言っていたのを思い出しました。

私はタイ行って給食のすばらしさを四つも知ることが出来ました。一つ目は、「温かい」「冷たい」とはつきり感じる事です。お弁当では、「ぬるい」だったけれど給食ではデザートが冷たくて美味しいです。二つ目は、栄養が良いというところです。いつもお母さんが

「野菜入れれなかったから買ってこなきゃ。ひなちゃんごめんね。」

と、だるそうに言っていたのでむりしなくて栄養考えなくても私、元気だよと思いました。三つ目は、毎日ちがうメニューだという事です。お弁当だと、ほとんど同じメニューで少しずつお気に入りだったおかずもあきてきちゃいます。ましてや海外なのでとっても苦ろうしていました。そして、生野菜入れてくれなかったのでもいつも野菜はいためるか、オムライスでした。四つ目は、季節が味わえるということです。お弁当では難しい「七夕ゼリー」や「かしわもち」が給食では出るのがうれしいし、楽しみでした。なのでお弁当が楽しみと言えるのは初めのほうだけだと思います。

これらのことを理由に、給食は自分にもやさしく、家族にもやさしいことが分かりました。これからも、給食に感謝したいです。